

【木材の価値と高品質化の取組について】

J： 地元で材木業をしていますが、最近ここ3年ぐらいから落ち込みで、全然ダメな状態になりかけていましたが、今は室内素材、マンションとか大手ビルダー向けの四万十ヒノキをメインにした商品など、ホームページ、ウェブで、SEO対策を強化して、販売量はどんどん上がってます。

この高知県では、四国のヒノキはすごく価値があることを、皆さん分かってない方がすごく多いです。ここ2年か3年ですごく気がついた点として、四国の木は、赤みが強いけれど、台風の通過点で硬い、アテが多いとかで、けん制するけれど、一方で、本州や九州では高値で売れているんです。ウェブで売ると高いんです。

森林組合や大きい業者さんは、はっきり言って勉強不足でどんどん弱っていますが、行政はどんどん協同組合とかに補助金出して、そこが安売りするので、民間零細業者はいくら努力しても報われない。私が思うには、県がGメンみたいな、中間の監視できる組織を作って、安売りさせない。するような業者にはなるべく補助金を下ろさないようにして、高品質ないい木材を県外に直接出荷できるような企業をどんどん伸ばしてもらいたい。

知事： また地域産業振興監に今度、詳しくお話を聞かせていただきたいと思います。木でもやっぱり高付加価値化しないといけないと思ってますし、嶺北スケルトンみたいな取り組みもありますが、Jさんから見たらネックになるところを是非教えていただきたいと思います。いずれにしても木の世界も高品質化をして、地産外商だと思ってます。

J： 人工乾燥に流れているんですが、低温乾燥をすごく私は推奨します。木材の高温乾燥ってちょっと危ないと思います。高知県はこれほど遅れているなら、天然乾燥型のゆっくり乾かす、そういう本当の本物の木材を高品質で高価格で県外に出す。でも問題は、高品質で天然乾燥をやると、ストックするのにとんでもないお金がかかることです。来年からもし産学官連携でそういう研究をやってもらえれるのなら、是非、そのことを強くやってもらいたい。